
SCOA問題集

(就活の教科書)

SCOAの解説記事はこちら



例題①：四則計算・方程式（数理分野）

1. $(\sqrt{2}+1)^2-3(\sqrt{2}+3)+2$

2. $x^2 + 3x - 15 = 0$

例題①の解答・解説

【分配法則】の利用

$$a \times (b+c) = a \times b + a \times c$$

【乗法公式】の利用

$$\textcircled{1} (x+a)(x+b) = x^2 + (a+b)x + ab$$

$$\textcircled{2} (x+a)^2 = x^2 + 2ax + a^2$$

$$\textcircled{3} (x-a)^2 = x^2 - 2ax + a^2$$

$$\textcircled{4} (x+a)(x-a) = x^2 - a^2$$

1：分配法則と乗法公式②を使う

$$(\sqrt{2}+1)^2 - 3(\sqrt{2}+3) + 2$$

$$= 2 + 2\sqrt{2} + 1 - 3\sqrt{2} - 9 + 2$$

$$= -4 - \sqrt{2}$$

2：乗法公式①を使う

$$x^2 + 2x - 15 = 0$$

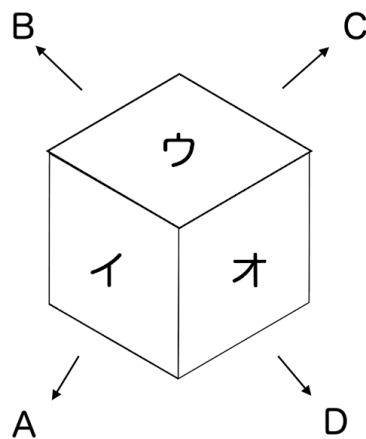
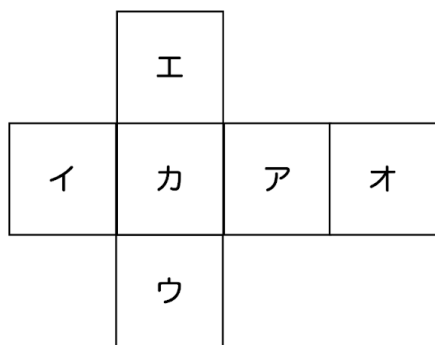
$$(x+5)(x-3) = 0$$

$$x = -5, 3$$

例題②：サイコロ（論理分野）

立方体とその展開図がある。

立方体を支持された方向に回転させた時、回転後に上の面にアが出るものを全て選べ。



指示

1. $A \rightarrow A$
2. $B \rightarrow A \rightarrow C$
3. $C \rightarrow D$
4. $B \rightarrow C$
5. A

例題②の解答・解説

【解答】 5

【解説】

展開図で間に1マスはさんだ目どうしが、サイコロでは表と裏の関係になる。

ここから、アはイの裏。

アが上にくる転がし方は「A方向に1回」。

A、C以前のB、Dへの回転は、アの位置が変わらないので省く。

これらの条件から、5はアが上だとわかる。

5.A

例題③：四字熟語・漢字の読み（言語分野）

(1) 四字熟語

次の四字熟語について、（ ）内に入る数字を足すといくつになるか。

唯（ ）無（ ）

（ ）苦（ ）苦

(2) 漢字の読み

次に示す漢字の読みで、間違っているものを選びなさい。

1. 斟酌 - しんしゃく
2. 悪辣 - あくらつ
3. 慇懃 - いんぎん
4. 反駁 - はんぱく
5. 名刹 - めいさい

例題③の解答・解説

(1) 18

最初の四字熟語は「唯一無二」。空欄には「一」「二」が入る。

2つ目の四字熟語は「四苦八苦」。空欄には「四」「八」が入る。

これらを足すと15。

(2) 5.名利

間違っているのは5の「名利 - めいさい」。

正しくは「めいさつ」と読む。

その他の選択肢はすべて正しい読み。

*名利は「名高い寺」という意味。

例題④：空欄補充・会話の返事（英語分野）

(1) 次の文の（ ）に入るものとして、適切なのは次のうちどれか。

She is the only woman () I can talk about this kind of thing with.

1. whom
2. what
3. which
4. whomever
5. who

(2) 次の文に返事をするとき、最も適切なのはどれか。

Where is my bag?

1. It is mine.
2. No, it is in this room.
3. It is in this room.
4. It is her room.
5. There is one in this room.

例題④の解答・解説

(1) 【解答】 1.whom

【解説】

関係代名詞の問題。

設問文の意味は「彼女は私がこの手のことを話せる唯一の人です」。

先行詞が人の場合の関係代名詞は、who（主格）、whose（所有格）、whom（目的格）。

設問文を独立した2つの文にしたとき、2文目に補う言葉と同じ格の関係代名詞が正解。

①She is the only woman.

②I can talk with her about this kind of thing.

2つ目の文章にはherを補う必要がある。ここから、関係代名詞は目的格のwhomが入ることがわかる。

(2) 【解答】 3.It is in this room.

設問の意味は「私のかばんはどこにありますか？」。

どこにあるかを答えた3の「It is in this room.」が正解。

例題⑤：社会・理科（常識分野）

(1) 第1次世界大戦前の国際的な対立の組み合わせとしてあげられる、三国同盟と三国協定の組み合わせとして正しいものは、次のうちどれか。

1. ドイツ・イタリア・ロシア 対 イギリス・日本・アメリカ
2. ドイツ・イギリス・ロシア 対 フランス・アメリカ・日本
3. ドイツ・イタリア・ロシア 対 イギリス・日本・アメリカ
4. ドイツ・オーストリア・イタリア 対 イギリス・フランス・ロシア
5. ドイツ・オーストリア・日本 対 イギリス・フランス・アメリカ

(2) 物質の酸化還元反応の説明として、正しいものはどれか。

1. 酸化では、酸素も電子も受け取る
2. 酸化では、水素も電子も失う
3. 酸化では、電子を受け取るが水素は失う
4. 還元では、酸素も水素も失う
5. 還元では、電子を受け取るが水素は失う

例題⑤の解答・解説

(1) 【解答】 4

【解答】

第一次世界大戦前の三国同盟はドイツ・オーストリア・イタリアの間で結ばれたもの。

また、三国協商はイギリス・フランス・ロシアの間で結ばれたもの。

(2) 【解答】 2

【解答】

酸化では、水素と電子を失い、酸素を受け取る。

還元はその逆で、水素と電子を受け取り、酸素を失う。

出典：

SPIノートの会『この業界・企業でこの「採用テスト」が使われている！ 【最新版】 有名企業1300社でこの採用テストが出る！』、講談社、2020